≪難病を正しく理解していただくために≫

令和８年１０月作成

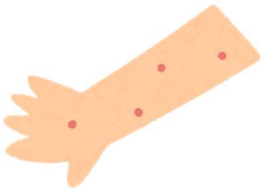
免疫性血小板減少症とは　どんな病気？

免疫性血小板減少症とは、血小板減少を来たす他の明らかな病気や薬剤の服薬がなく血小板数が減少し、出血しやすくなる病気です。病気が起こってから 6 ヶ月以内に血小板数が正常に回復する「急性型」は小児に多く、6 ヶ月以上血小板減少が持続する「慢性型」は成人に多い傾向にあります。血小板数が 10 万/μL 未満に減少した場合、この病気が疑われます。
これまで特発性血小板減少性紫斑病と呼ばれていましたが、病気の本体が明らかになるとともに海外では 2010 年ごろから免疫性血小板減少症と呼ばれるようになり、日本でも病名変更となりました。診断や治療など診療の内容はこれまでと変わりはありません。

患者さんはどのくらいいるのですか

平成 19 年度の時点での患者総数は約 2 万人です。発症のピークは 20～40 歳台の若年女性ですが、これに加えて 60～80 歳でのピークも認められるようになってきています。20～40 歳台では女性が男性の約３倍多く発症します。高齢者では男女差はありません。

免疫性血小板減少症の主な症状



点状や斑状の
皮膚にみられる出血



歯ぐきからの出血や
口腔粘膜出血



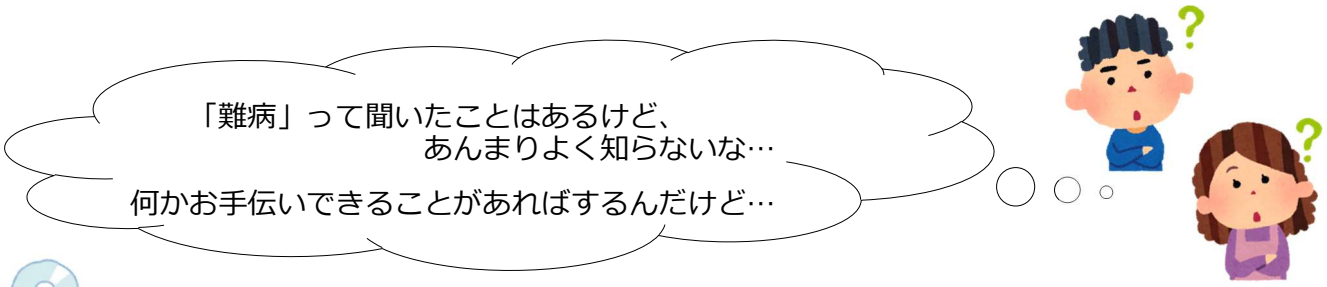
鼻血

その他の症状として、便や尿に血が混じったり、生理が止まりにくいなどが挙げられます。重症な場合は脳出血が起こることもあります。血小板は、出血を止めるために非常に大切な細胞であるため、この数が減ると出血し易くなったり、出血が止まりにくくなるのです。

難病の患者さんのなかには、援助や配慮を必要とすることが外見からは分かりにくい方もおられますので、困っているようであれば、援助や配慮をお願いします。

裏面もご覧ください

知ってください！「難病」のこと





難病は、発病の原因が明らかになっておらず、治療方法が確立していない病気なんだ。
発症割合は低いけれど、誰もが発症する可能性があるんだよ。

「難病の患者に対する医療等に関する法律」において、

難病は**「発病の機構が明らかでなく、かつ、治療方法が確立していない希少な疾病であって、当該疾病にかかることにより、長期にわたり療養を必要とすることとなるもの」**と定義されています。



難病の患者さんの症状は様々です。長期の療養生活を必要としますが、適切な治療等を行い管理を継続することで、在宅での療養生活や就労、就学が可能な疾病もあります。

○難病のうち、国が指定する疾病に該当する方に対して、法律に基づき医療費の自己負担の一部を公費で負担する制度があります。（指定難病　医療費助成事業）

＊対象となる疾病などについては、「難病情報センター」のサイトにて確認できます。
http://www.nanbyou.or.jp/

＊詳しくは、大阪市の難病対策に関する大阪市ホームページにてご確認ください。

https://www.city.osaka.lg.jp/kenko/page/0000074083.html

なお、小児の方へは、「小児慢性特定疾病　医療費助成制度」もあります。

ご存知ですか？ヘルプマーク

難病の患者さんのなかには、ヘルプマークをお持ちの方もおられます。

ヘルプマークとは、義足や人工関節を使用している方、内部障がいや難病の方、または妊娠初期の方など、援助や配慮を必要としていることが外見からは分からない方が援助を得やすくなるよう作成されたマークです。ヘルプマークを身に着けた方を見かけた場合は、電車・バス内で席をゆずる、困っているようであれば声をかけるなど、思いやりのある行動をお願いします。


（赤地に白の十字とハート）

電車・バスの中で、席をおゆずりください	駅や商業施設等で、声をかけるなどの配慮をお願いします	災害時は、安全に避難するための支援をお願いします

お問合わせ先　：　大阪市健康局保健所管理課　　電話　06－6647－0923